

ロシアが戦略的な航空宇宙兵器を重点的に開発

漢和防務評論 20150805 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

ウクライナ紛争以後、ロシアは、米国、NATO からますます追い込まれていますがロシア国内の危機感も増大し、政治的対立が軍事的衝突に発展する可能性が危惧されています。ロシアとしては、航空宇宙防御能力を高め、負けない戦略を採ろうとしているようです。

添付の記事は、原文タイトルが「中露の軍事改革と防空作戦」となっていますが、内容は中国に全く触れず、ロシアの防衛力整備の方向に関する記事でしたので、訳者が独断でタイトルを変更しました。

ロシアの空軍防空部隊副司令のコメントにロシア軍の危機感が表現されています。

本誌編集部

ロシア軍に S-500 型地对空ミサイルが正に配備されようとしている時に、中国への S-400 型地对空ミサイルの輸出が許可された。これらのミサイルは、ALMAZ-ANTEI JOINT STOCK COMPANY で生産されたものである。この会社は、ロシア大統領令とロシア政府の 2002 年の正式決議及び 2002-2006 年度ロシア国防工業改革と発展計画に基づき正式に成立したロシア国防工業の最初の大型持株会社である。同会社の”株主”は、46 個の生産工場、装備開発と生産協会、設計局、研究所等で構成される。現在、専ら短距離、中距離、長距離地对空ミサイル (SAM) システム、多種類の基本型探知レーダー、及び自動制御システムの開発と生産を行っている。この会社は正式成立後、併合を重ね現在は 60 個以上の生産工場、機構及び附属企業を有している。所在地はロシア連邦の 17 個の行政区に及んでいる。

2011-2020 年ロシア国家武器採用計画によると、ロシアの軍事と政治の指導者は、戦略的観点から積極的に航空宇宙防御兵器を開発することを重視している。例えば、2013 年 6 月、サンクトペテルブルグの OBUKHOVSKY ZAVOD 聯合体が举行了航空宇宙防御基礎技術の発展の現状に関する会議で、ロシア大統領プーチンは、全ての参加者に対し、”ロシアは、3.4 億ルーブルを投入し、航空宇宙防衛部隊の戦力を向上させる。このためロシアは、国家軍備開発予算の 17%を当てる。”と宣言した。

現有の航空宇宙兵器には、射程で区分される弾道ミサイル、陸上発射、空中発射、艦上発射型の巡航ミサイル、有人及び無人航空機、及び種類が多い精密誘導兵器が

ある。近い将来、航空宇宙兵器に宇宙発射型兵器が加わるようになる。ロシアが戦う戦争は、1つの独立した国家としての存亡がかかっており、そのためには上記の多種類の脅威に対抗できなければならない。

ロシア空軍防空部隊副司令 VICTOR GUMENNY 中將は、次のように述べた：
強大な航空防衛能力を持たない国家は、必ず壊滅的混乱に陥る。民衆はこのため苦難に陥り、国外の思想と傀儡政権が人民の頭上にのしかかる。防空ミサイル部隊の主要な戦力として、航空宇宙防御兵器は国家安全と主権を防衛する上で、ますます重要になる、と。

したがって、当面の国家武器装備採用計画の目標の1つは、現有の SAM システムを S-400 型にグレードアップすることである。その後、2015-2016 年度から、更に先進型の S-500 型にグレードアップする。今のところ、S-500 は世界で最先進の SAM システムであり、その独特の性能は、最新の或いは将来の、空中からの脅威を撃破できる。2020 年におけるロシアの武器装備採用計画のデータに基づけば、ロシア軍は、同計画の最後の一年 2020 年を待たずして、200 セットの全く新しい SAM システムを導入することになる。これが実現すると、先進的な航空宇宙防御兵器は、ロシアの軍備全体に占める比重が少なくとも 75%に増加する。ALMAZ-ANTEI JOINT STOCK COMPANY は、ロシアの武器市場で特殊な地位を占めている。特に同会社が生産する SAM システムは、その他の武器、例えば、海軍装備、装輪車両、装甲車、小型武器、航空機或いは宇宙システム等とは異なる。ロシア軍は、防空ミサイル装備を国内メーカーからのみ購入しようとしており、海外から関連装備を購入する計画は無い。その理由は、極めて単純だ。この種の兵器は戦略的な要素が強く、ロシアの国家安全に極めて重要な影響があるからである。ロシアの政治、軍事指導者は、防空兵器をますます重視するようになっている。特に、国家武器装備採用計画を見れば、この種兵器を重視していることが分かる。それは理論的根拠があるのか？これは疑問が無い。この政策は十分な根拠がある。このほか防空とミサイルシステム開発を戦略的に重視する理由は、近年来逐次明らかになったロシアにとって残酷かつ客観的な事実に基づいている。米国と NATO はこの領域で優勢である。しかもこの種の優勢は、最も敵対国家となる可能性のあるロシアに対抗する上での優勢である。例えば、航空宇宙兵器及び長距離空中発射兵器であり、特に精密誘導兵器である。ロシアは、このような彼我の形勢に対応するためには、2020 国家装備購入計画にしたがって単純に大量の作戦機を装備することだけでは、この形勢を転換することはできない。その理由は次の通り：ロシア軍は、この装備採用計画期間中に 500 機の新たな作戦機を受領するが、米軍側は同一期間内に約 1600 機の新たな作戦機を受領する。言い換えれば、米軍側は、ロシア軍の 3 倍の新たな航空機を受領し、その中の大部分が攻撃機、戦闘爆撃機、純粹の戦闘機、爆撃機及び軍用偵察機を含む作戦機である。

また NATO 成員国も軍事力強化のための計画を推進している。その主旨は、空軍

の作戦能力を高めるため、精密誘導兵器の質を高め、数を増やすことにある。これらの政策は、西側国家の航空優勢をさらに大きくする。もし政治の衝突が軍事衝突に変化した場合、上述の多種類の武器装備は随時ロシアに向けて発射される。最近のウクライナ周辺の情勢は、この可能性を証明することになった。

このほか、忘れてはならないことは、ロシアの潜在的敵国の存在である。率直に言えば、ロシアと国境を接する周辺国家である。ロシアは、多くの隣国と、公表された或いは非公表の思想上の対立、或いは政治的対立がある。このほか領土紛争が、ロシアと多数の国家間に衝突の可能性を潜在させている。好例が日本である。日本は従来から第二次大戦で所謂北方領土を失ったことを受け入れる準備ができていない。

日本は、自ら強大な空軍力を保有するだけでなく、米国の同盟国であり、米国と緊密な政治的軍事的同盟関係にある。ウクライナでの衝突は、ロシアに対して敵意に満ちた国－オーストラリアをアジア地区に誕生させた。また同国は、空軍の現代化を積極的に推進している。

さらにロシアと中国の関係が逆転する可能性を無視すべきではない。中国は、近年来、大量の人力と物力を投入し、空軍と宇宙兵器を全面発展させている。

特に注目すべきことは、ロシアの地理的位置である。一旦武力衝突が発生すると、敵は、ロシアを攻撃する重要な手段の一つとして、宇宙システムを使うであろう。1941-1945年の偉大な祖国防衛戦争期間、戦争は主として地上戦であった。戦争の結果は、主として強大な武装集団と相応の歩兵、砲兵の作戦行動に左右されたが、航空打撃力も依然重要な働きをし、あるときは決定的な働きをした。日米の太平洋戦争期間、艦載機及び陸上基地の作戦機がワシントンに最終的に勝利をもたらせた可能性がある。

防衛線外からの反撃

ロシアの現有の短距離、中距離、長距離地対空ミサイルシステムは、ソ連時代に開発されたものではない。作戦能力から言えば、ソ連時代の防空兵器は、多くの地域紛争で優れた性能を発揮した。（ソ連製の地対空ミサイルは、世界で最も優れた防空兵器であっただけでなく、同時に世界の同類防空兵器の中で、ユニークな存在であった。）

外国（西側国家も東側国家も含め）の防空兵器と比べても、ロシアの防空兵器の優秀さは争えない事実である。これは防空兵器開発の専門家と世界各国軍隊の一致した意見である。たとえ外国軍がロシア製防空兵器の仕組みを完全に理解したとしても、ロシアが開発し、現在ロシア軍で就役中の地対空ミサイルシステムは、最も先進的な第5世代作戦機を撃ち落とすことが出来る。まして大量生産された第4世代

戦闘機にあっては言うまでもない。その他の国家で就役中のミサイル及び空中打撃システムは、ロシアの地対空ミサイルの前では同様の運命に直面する。

およそ前に述べた全ての防空兵器システムは、ALMAZ-ANTEI JOINT STOCK COMPANY 所属の企業が生産する。これは、ロシアの 2 つの主要防空ミサイル兵器開發生産機構を実体あるものに合併させたことが正しかったことを証明している。国防工業の中で、防空兵器システムを優先開発するとの選択は、ロシアの全ての人力、物力及び財力を集中し、過去数十年にわたって蓄積してきた関連技術を最も有効に活用することにつながる。別の方面では、この政策は国内市場で企業間の、特に国際防空兵器市場での不必要な競争を避けることが出来る。唯一の例外として、少数の数種の短距離防空ミサイルは ALMAZ-ANTEI JOINT STOCK COMPANY 所属の企業では生産されない。

以上